

幾芳の物如  
理方 花



四拾三編下

~ 13  
1178  
86

白



種彦作

四拾三編上

~ 13  
1178  
85





白

種彦作

四拾三編上

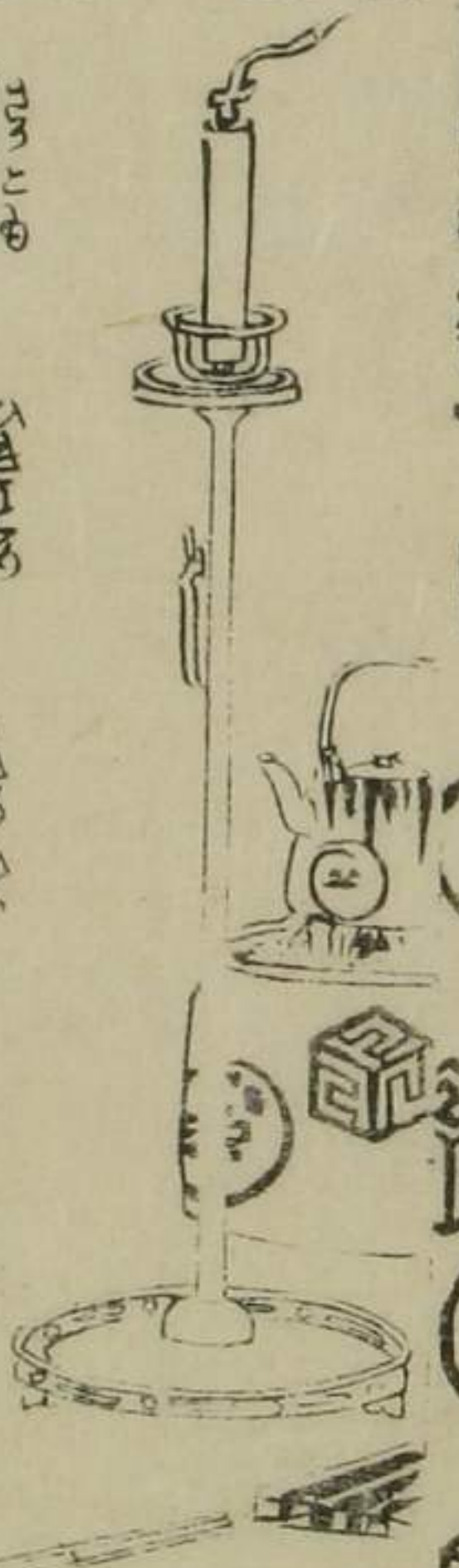
菊

1178  
85

へ13時  
1178  
85



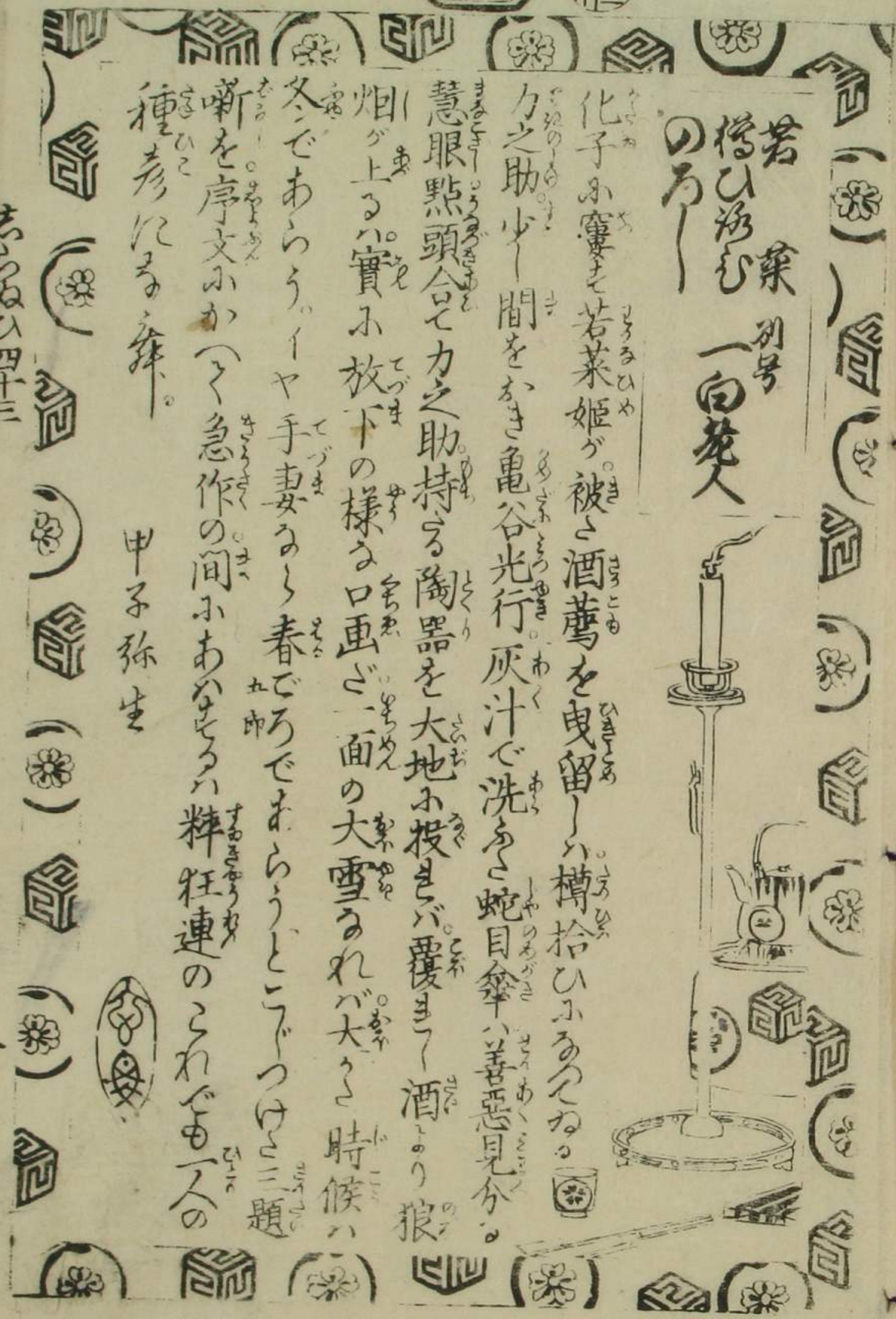
若菜 列号  
信ひ海む 一白苑人  
のろ



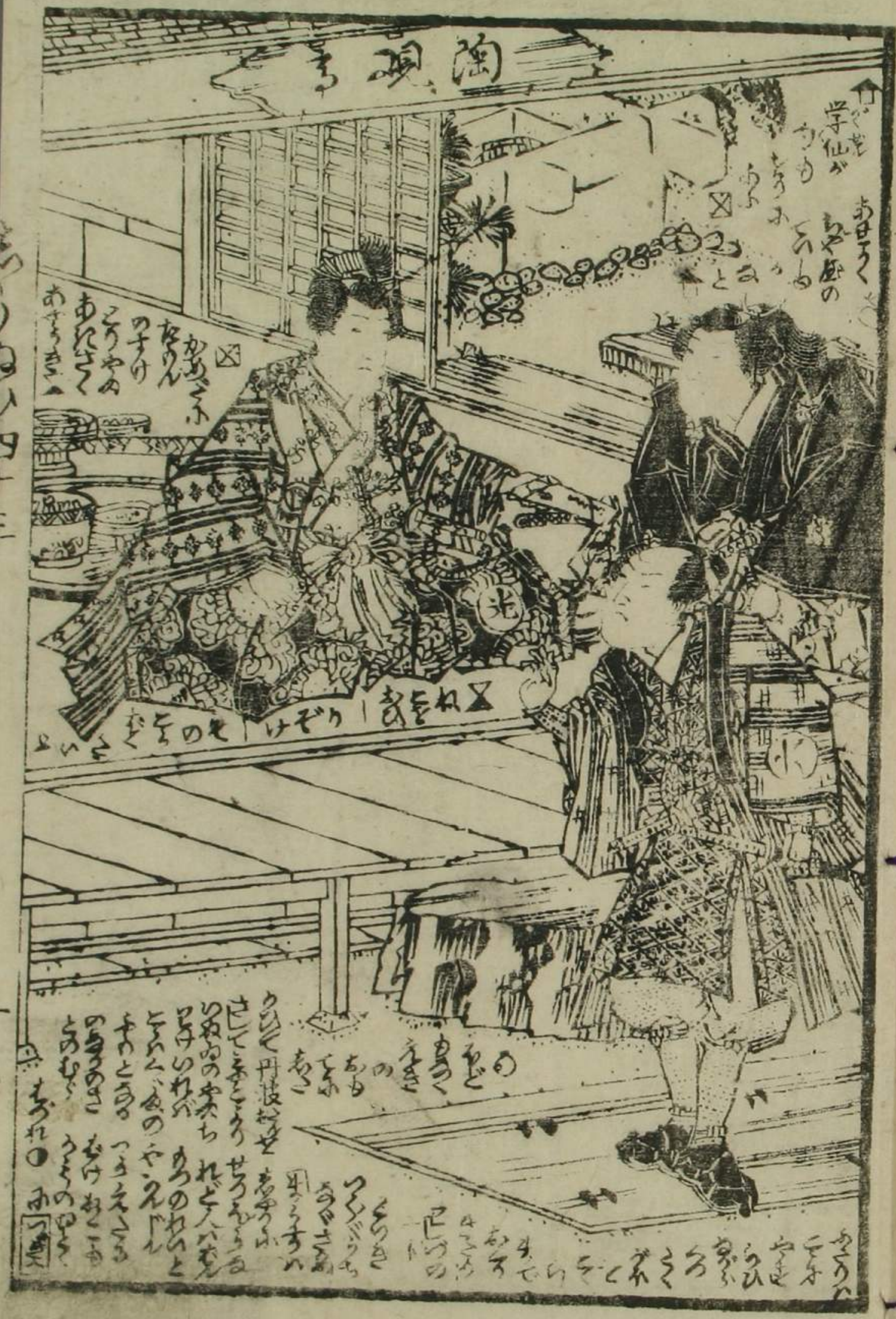
化子小竈と若菜姫が被と酒薦を曳留し樽拾ひふるのなる  
カ之助少間をかき電谷光行灰汁で洗ふと蛇目傘の善悪見分  
慧眼點頭合カ之助持る陶器を大地に投ぎバ覆まう酒より狼  
畑の上の實小放下の様口画ご一面の大雪るれバ大う時候ハ  
冬であらうイヤ手妻るる春ごろであらうとこつつけ二題  
漸を序文ふかしく急作の間小あなをるの粹狂連のこれでも一人の  
種考にる森

甲子弥生

ちらぬハ四十三





















あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君

あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君  
あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君  
あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君



あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君  
あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君

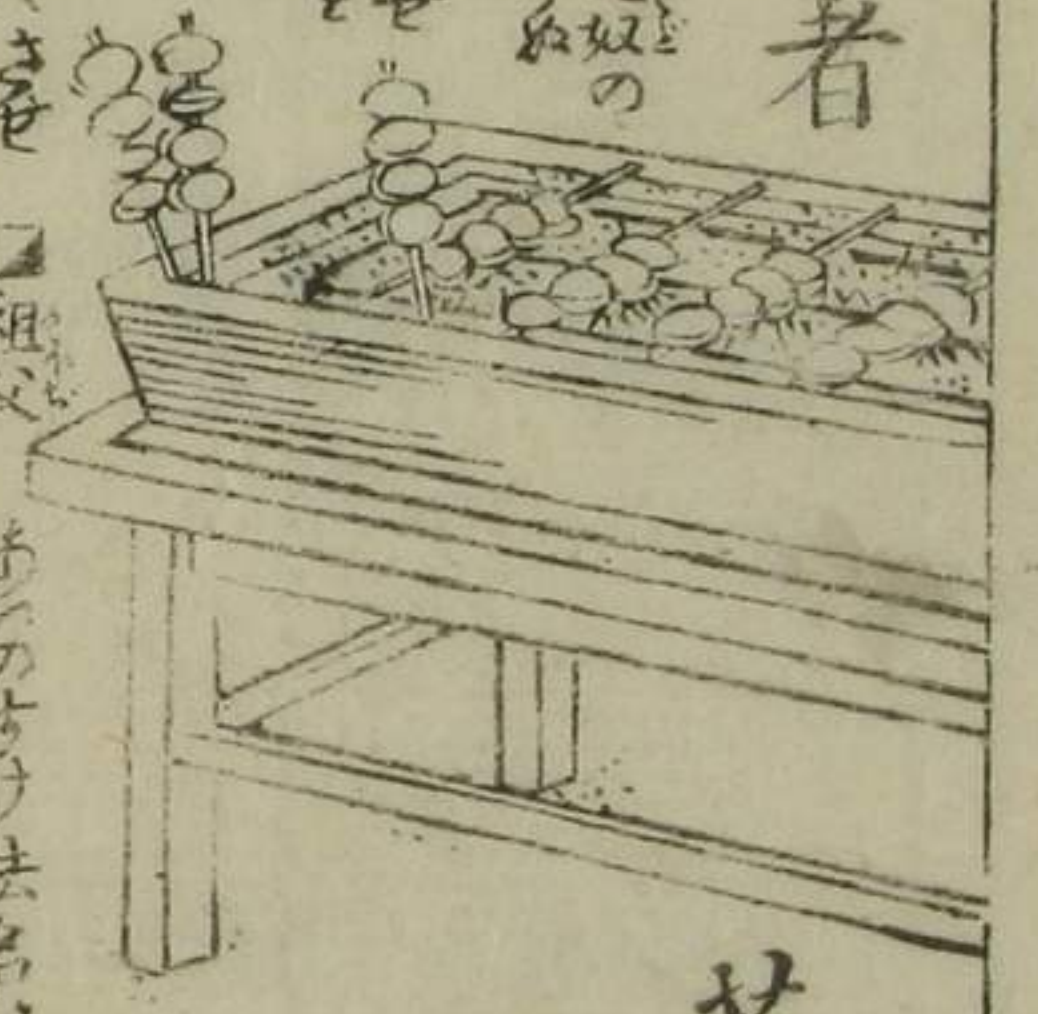
あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君  
あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君

あはれありさる  
この人の女はあはれ  
業姫君



種彦著  
一日本...

種彦著



芳樂畫



種彦著  
此種彦著...  
種彦著...

種彦著  
此種彦著...  
種彦著...

志のぬひ釋

志のぬひ釋  
本編より一息...

兩面織花田物語

編者  
五編並

作

坂の彦八大傳

坂の彦八大傳  
朝霞...

古今似顔大全

故豊國公利著  
大錦 白二番

太平記英男傳

中 錦山々亭有人記  
白香續 惠齋芳美圖



幾芳の物姫  
の  
理方 龍



四拾三編下

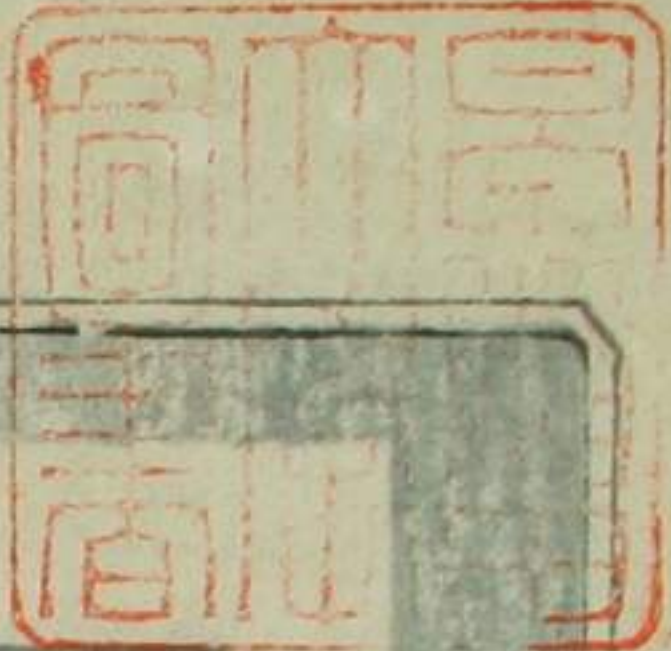
へ 13  
1178  
86

金花... 三の...  
あはれ... 女中...  
あはれ... 女中...



あはれ... 女中...  
あはれ... 女中...

1178  
86



# 白縫物語

四拾三編

下巻

作 者 種 彦  
二 代 目  
乙 第 元 柳  
又 二 治  
新 春

堂 深 取 制 一 畫 卷 中  
川 元 本 有 翁 者 中  
廣 幸 芳 幾









△らだれて  
こころ  
ゆめを  
ふりて  
まはれぬ  
さすぐみ  
てこの  
さきんあは  
るあはれ

きんぎょのしん



△らだれて  
こころ  
ゆめを  
ふりて  
まはれぬ  
さすぐみ  
てこの  
さきんあは  
るあはれ

△らだれて  
こころ  
ゆめを  
ふりて  
まはれぬ  
さすぐみ  
てこの  
さきんあは  
るあはれ

△らだれて  
こころ  
ゆめを  
ふりて  
まはれぬ  
さすぐみ  
てこの  
さきんあは  
るあはれ







四十三







あきくかのらう  
 ちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ

あきくかのらう  
 ちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ

あきくかのらう  
 ちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ

あきくかのらう  
 ちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 めのちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ  
 のちよんやむせ





浪漣黄金鮎  
 江戸作  
 廣園齋  
 助様

三編 讀切  
 浪漣黄金鮎  
 江戸作  
 廣園齋  
 助様

江戸作  
 廣園齋  
 助様

此草紙四卷  
 江戸作  
 廣園齋  
 助様

